

# AIDS UPDATE

No.80 2008. 2. 29

広島大学病院  
エイズ医療対策室  
内線5581(輸血部長室)  
Internet:www.aids-chushi.or.jp

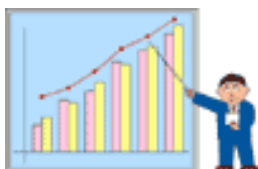


## 沖縄県でのHIV/AIDS診療の取り組みについて 琉球大学の健山先生にご講演いただきました！



2月19日に琉球大学大学院医学研究科にて感染病態制御学講座の講師をされている健山正男先生をお招きし、教職員向けエイズ講演会を開催致しました。

沖縄県では、2004年以前は検査体制の整備の遅れからAIDS発症患者がHIV陽性受診者を上回っていましたが、諸先生方の活躍により検査が普及し、近年は早期発見される患者が増えてきたとのことでした。またリゾート観光地の特性から県外、国外からの旅行者による感染拡大も問題となっており、さらなる啓発活動が重要であると思われました。



健山先生は教育活動を積極的に行われており、離島、拠点病院、医師会への出張講演も多くされておられるとのことでした。また、先生の専門分野である感染症学の視点から、多くの日和見感染疾患の診療と細かな分析も行っておられ、当院での今後の感染症治療の手本とすべき内容がありました。



HIV診療と繋がり深い血友病診療に関しては、沖縄県内では専門医が少なく協力を得られにくいことから、広島大学病院の経験を生かして、今後とも琉球大学における診療行為に協力

していければと思います。また、同じ地方の拠点病院の立場から、琉球大学と広島大学はこれからも情報交換活動を積極的に行い、診療レベルの向上に努めていきたいと考えております。

最後に今回ご多忙の中広島までお越しいただき、ご講演いただきました健山正男先生に感謝の意を申し上げたいと思います。

(エイズ医療対策室 医師 齋藤)

### 【参加者の感想から】

院内・医師会・ゲイコミュニティなど幅広くまた様々なグループへ働きかけは頭が下がる印象です。今後とも頑張ってください。

多岐にわたる内容でとても興味深くおもしろかった。

貴重なご講演をありがとうございました。医師会への「勉強会の売り込み」にとても興味を持ちました。ありがとうございました。

医療機関での積極的な活動をお伺いし、エネルギーをもらいました。

離島への教育活動などの積極的な啓発活動の報告が印象に残りました。





## 第3回HIV/AIDSソーシャルワーカーネットワーク会議 開催報告



上記会議が、平成20年2月9日・10日の1泊2日で県立広島大学(三原市)にて実施され、中四国地域のエイズ診療拠点病院に勤務するソーシャルワーカー(以下SW)7名が参加しました。プログラムの前半部分を会議とし、後半部分では研修として、講義とロールプレイを行ないました。



会議では以下2題の基調報告と検討が行われました。

議題1では、「国連障害者権利条約への批准とHIV陽性者支援の現状」と題し、国連で採択された障害者権利条約の特色である、障害者の平等な人権と基本的自由の行使のために、国や社会の側が変更調整を行なう義務について記した「合理的配慮」の概念とHIV陽性者の就労場面における障壁について報告され、HIV陽性者が快適な社会生活を継続するために求められる社会システムの変更について議論されました。



議題2では、「Community-Based Organization (CBO)との連携」と題し、中四国ブロックにおけるCBOの変遷と感染者動向との分析が報告されました。CBOとは、地域に根ざして活動し、行政や教育・医療機関による既存のサービスと市民のニーズとのギャップを埋め、地域住民の経済社会活動に貢献していく団体を指します。ここでは、CBOとの連携によって、HIV陽性者支援に結びついた例や困難であった例などが参加者から報告され、CBOと患者との連携モデル構築の必要性があることが明確になりました。

研修部分では、「対人支援におけるコミュニケーション理論の概略」として、SWのクライアントへの直接援助技術向上を目的として、生成論的システム理論を用いた評定・援助技法について、県立広島大学講師の大下由美先生より講義がありました。講義前のアンケートでは、参加者はクライアントの問題について、感情に着目しやすく、単純な因果関係により問題を捉えやすい傾向がありました。講義では、クライアントと他者との日常の会話や行動などのやりとりによって関係性が作られるという循環的視点による問題評定法を学習し、問題解決のためにSWが具体的な日常のやりとりに着目し、関係性を変化させていくことで問題解決を図る試みについて、面接場面のロールプレイを通して体験的に学習しました。



参加者の方々からは、日常業務を振り返る良い機会となったという意見が多くあり、参加者全員から今後も会議継続を求める声がありました。また、これまでHIV陽性者への支援機会がなかったSWからは、今回多くの情報を得ることができ、今後HIV陽性者への支援に向けた準備の機会となったという感想がありました。これからもHIV関連情報収集、援助技術の向上、そしてSW同士のネットワーク構築の場として、会を継続して行きたいと思えます。

(エイズ医療対策室 MSW 船附)





## 看護実務担当者会議 ご報告



1月19日、国立国際医療センターで行われた平成19年度エイズ治療研究開発センター（ACC）/ブロック拠点病院看護実務担当者会議に参加してきました。この会議は年に3回行われるもので、ACCと全国8ブロックのブロック拠点病院のHIV/AIDS患者担当看護師（コーディネーターナース）が集まり、日本全体のHIV/AIDS看護のレベルアップを目的にしています。

会議のプログラムには、ブロック/ACCからの活動報告、ブロック拠点病院の看護実務担当者の役割・機能の再確認、拠点病院におけるHIV専従看護師の人材育成について、平成20年度の活動計画、各プロジェクトでの活動など様々な議題がありましたが、今回はより各ブロック拠点病院の活動報告をご紹介します。

### 【北海道ブロック；北海道大学病院】

平成19年の新規患者数16人、累積患者数159人。今年度は、はばたき事業団が始めた土曜日検査に医療協力スタッフとして参加。



### 【東北ブロック；仙台医療センター】

平成19年の新規患者数16人、累積患者数162人。来年度からは担当看護師が2名へ増員予定。



### 【関東・甲信越ブロック；新潟大学医師学総合病院】

平成19年の新規患者数4人、累積患者数49人。新規患者のうち1名は進行性多巣性白質脳症で死亡。

### 【北陸ブロック；石川県立中央病院】

平成19年の新規患者数10人、累積患者数66人。北陸ブロック内の拠点病院、一般病院、精神科病院へブロック拠点病院スタッフが赴いて研修を行う出前研修を11件行った。



### 【東海ブロック；名古屋医療センター】

平成19年の新規患者数139人、累計患者数720人。

HIV/AIDS患者の半数が外国人であり、これまで同様、言語の問題が生じた。



### 【近畿ブロック；大阪医療センター】

平成19年の新規患者数202人、累積患者数1230人。院内にも精神科はあるが、ドラッグ使用の患者が増加し、より専門的な対応が必要となるため、院外の精神科と神経科の医師が月に2回HIV/AIDS患者の診察を始めた。

### 【九州ブロック；九州医療センター】

平成19年の新規患者数36人、累積患者数237人。診察日が毎日となった。医師が増え、面談室を診察に使われるため、面談室を増設。九州HIV看護研究会としても活動している。



### 【中国・四国ブロック；広島大学病院】

平成19年の新規患者数13人、累積患者数140人。メーリングリストを使って、拠点病院看護師28名へ情報提供を行っている。今後はインターネット環境にない看護師へ、どのように情報発信していくか課題。

近年では、ブロック拠点病院の実務担当者（HIV/AIDS患者担当看護師）が地域での抗体検査に関わることが多くなってきています。「早くHIVが発見できていれば」と臨床で感じる思いを地域で活動する人たちと共有し、連携をとりながらHIV抗体検査推進活動に協力しているようでした。

この会議は、他のブロック拠点病院が行っている活動を参考に来年度の活動計画を立てたり、患者数が多い病院での看護上の問題とその対策を聞くことで、今後の当院での看護に役立てる機会になります。来年度も継続して、中国・四国ブロック内のHIV医療体制整備のため、また特にHIV/AIDS看護のレベルアップのために、より効果的な活動をしていきたいと考えています。

（エイズ医療対策室 看護師 後藤）



### 薬物依存症とHIV感染症 講演のお知らせ



平成19年度 広島大学附属病院エイズ医療対策室  
**薬物依存症とHIV感染症**  
 ～予防的な働きかけを中心に～

講師：森田展彰先生  
 (筑波大学大学院人間総合科学研究科 講師)

種別～薬物依存症とHIV感染症は、薬物の乱用による感染、性感染症の併発、再感染を伴うことによるものです。予防的な働きかけによる感染予防も重要ですが、薬物の使用によるハイリスクな行為の多いHIV感染は、HIV感染のほとんどを占めています。本日の講演では、筑波大学大学院人間総合科学研究科の森田展彰先生をお招きし、薬物依存症とHIV感染症について、予防的な働きかけの重要性をお話しします。懇話の場も設けさせていただきます。

日時：平成20年3月3日(月)17:30～18:30  
 会場：広島大学医学部基礎棟2階 セミナー室2  
 対象：広島大学キャンパス構成員  
 主催：広島大学病院エイズ医療対策室

お問い合わせ先：  
 広島大学病院エイズ医療対策室(直線)  
 TEL:082-257-5581 FAX:082-257-5351

3月3日(月)、広島大学病院教職員向けエイズ講演会 として、筑波大学大学院人間総合科学研究科の森田展彰先生をお招きし、『薬物依存症とHIV感染症～予防的な働きかけを中心に～』の講演を開催致します。

昨年11月に行われた『第21回日本エイズ学会学術集会』での教育講演が、再度広島大学病院で行われます！最近話題になることの多いHIV感染症と薬物依存との関連について、興味のある方はぜひご参加下さい。なお、学会員向けのストリーミング配信のため、講演中は録画を行いますので、ご協力よろしくお願い致します。

### 関連イベントのお知らせ

今年度内のHIV/AIDS関連イベントのご紹介です。研修会やイベントの報告は、次号のAids Update no.81にて掲載予定です。

#### 【第1回包括的HIVカウンセリング研修会】

日時：2008年3月15日～16日  
 会場：八丁堀シャンテ

中四国ブロック内の6県から、HIV/AIDS診療に関わる多職種のスタッフが広島に集まり、陽性者支援に必要な心理社会的支援について、チーム医療のレベルアップを目指します。



#### 【サイトメガロウイルス研究会】

日時：2008年3月18日(月)  
 東京都立駒込病院感染症科の今村顕史先生による講演を予定しております。時間や会場などの詳細は、後日お知らせ致します。



#### <ご意見募集>

ご意見やご希望がありましたら、エイズ医療対策室(5351/5581)までお寄せください。

[TAKATA]